

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く (56) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(56)—

#### 1. 始めに

前報(55)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

ドイツグラモフォン 2539 312-313

モーツアルト ピアノ協奏曲 20 番

ピアノ協奏曲 21 番

ピアノ協奏曲 25 番

ピアノ協奏曲 27 番

フリードリッヒ・グルダ (ピアノ)

クラウディオ・アバド指揮ウイーンフィル

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

曲目のカップリングは違いますが、前報(49)、前報(50)、前報(51)と同様、グルダとアバド指揮ウイーンフィルのコンビの演奏です。

これら前報と同様、グルダの演奏は、流麗で歌うようなところがありますが、音に芯があつてかっちりした演奏の印象は同様です。アバド指揮ウイーンフィルも同様に、厚みがあり音が緻密で、構成がしっかりした印象を受けます。

### 3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、グルダとアバド指揮ウイーンフィルの演奏スタイルが的確に把握できました。

以上